

第 1 章 流域の自然条件

1-1 河川・流域の概要

安倍川は、その源を静岡県静岡市と山梨県南巨摩郡早川町の県境に位置する大谷嶺（標高 2,000m）に発し、山間部を流れ中河内川等の支川を合わせながら南流し、静岡平野を形成する扇状地に出て藁科川を合わせ、静岡市街地を貫流し、さらに河口付近で丸子川を合わせ駿河湾に注ぐ、幹川流路延長 51 km、流域面積 567 km²の一級河川である。

安倍川流域は、静岡県中部に位置し、県都静岡市 1 市に含まれ、流域の土地利用は、山地等が約 93%、水田や茶畑等の農地が約 3%、宅地等市街地が約 4%となっている。下流には我が国の根幹をなす国道 1 号、JR 東海道新幹線などの交通網や政治、経済、教育、文化、情報など中枢管理機能が集積しており、静岡市を中心とする静岡圏地域における社会・経済・文化の基盤をなしている。

流域内において「しずおか水を育む森 50 選」に 3 地区が選定されるなど、豊かな自然環境を有するとともに、水質は良好で、伏流水が水道用水、工業用水等に利用されている。

多数の崩壊地を抱える上流部は、植林されたスギ等の針葉樹林とシデ等の落葉広葉樹林で構成され、クマタカをはじめニホンカモシカ、ホンドモモンガ等の動物が生息し、溪流には、アマゴ、カジカ等が生息している。

山間部を流れる中流部は、スギ、ヒノキ等の人工林が多く、河岸にはコナラ群落、シイ、カシなどの樹林が連続している。魚類では、アユ、オイカワなどが生息している他、洪水による河床変動を受ける川原にはヤナギ類が点在し、ツマグロキチョウ等の昆虫類が確認されている。

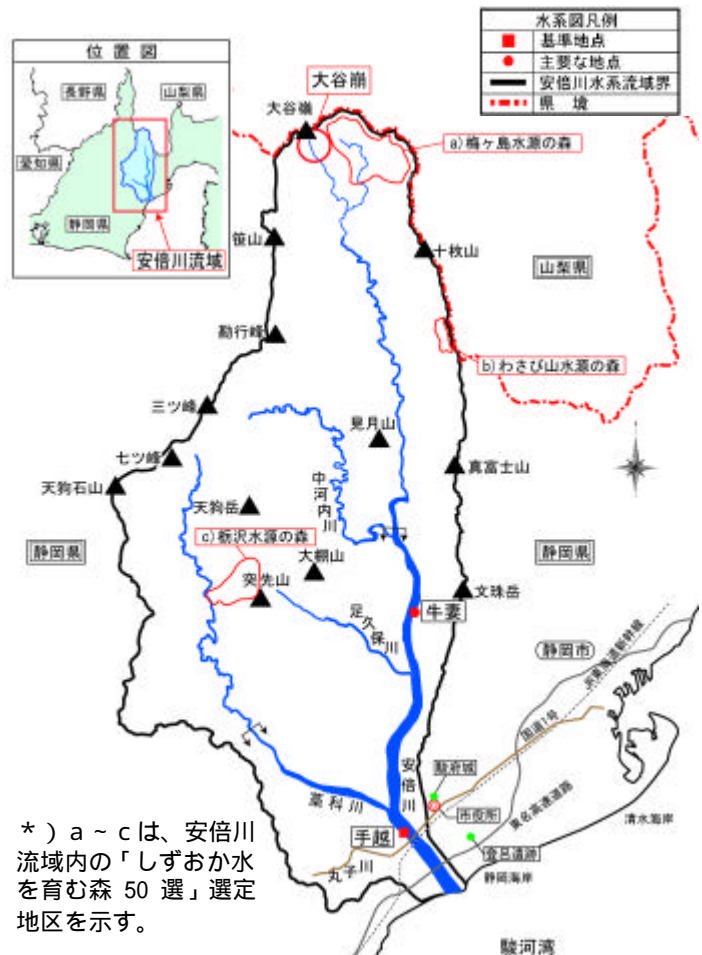


図 - 1.1 安倍川流域図

網状河川となる下流部は、洪水時には河床や流路が大きく変動するため河道内の樹木は少なく、流水が伏没する区間も見られ、河床や流況が不安定であることから生物相は豊かではないが、砂礫地に営巣するコアジサシやチドリ類等が確認されている。

また、安倍川は、弥生時代後期の生活様式、農耕文化を今に伝える登呂遺跡に見られるように、古来から人々に豊かな恵みの水を与えてくれる母なる川であった。

1-2 地形

安倍川は、その源を静岡県静岡市大谷嶺（標高 2,000m）に発し、本川が流域の東側に偏って流れているため、中河内川・足久保川・藁科川などの大きな支川はいずれも右岸側から流入し、左岸側からは短小な急流支川が流入するのみである。

流域の東側にある山稜は、ほぼ南北の直線状に連なる急峻な山地で、北から南へ十枚山（1,726m）・真富士山（1,343m）・文珠岳（1,041m）と次第に低くなり、文珠岳から南で急に高度を減じ、静岡平野に至っている。流域の西側にある山稜は、笹山（1,763m）・勘行峰（1,450m）が北から南にかけて伸び、勘行峰からは天狗石山（1,366m）へと南西方向に伸びている。

安倍川の河岸沿いの地形は、上流部に大谷崩の形成と関係のある砂礫段丘が発達しているが、孫佐島より下流は、概ね埋積谷の状態となっている。牛妻より下流では、谷底平地が出現し、さらに下流に至ると扇状地性の静岡平野が開け、海岸に流出した土砂は静岡・清水海岸を形成している。



図 - 1.2 安倍川流域の地形

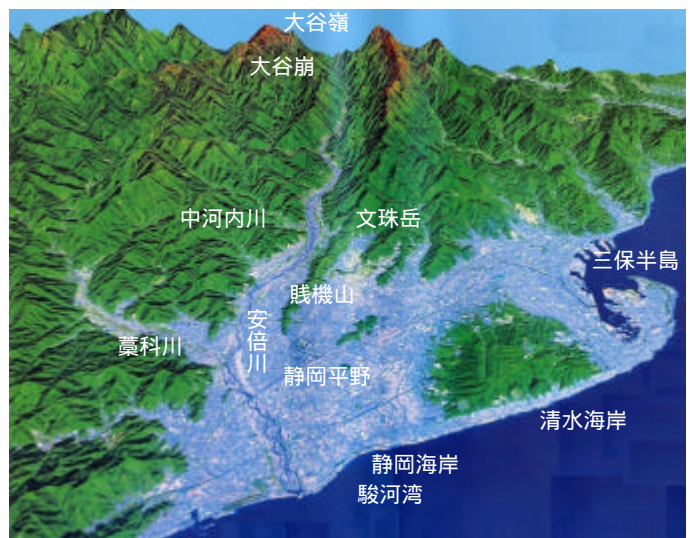


図 - 1.3 安倍川鳥瞰図
「Agency/ARTBANK Product / SHASHINKAGAKU」
(承認番号 平9総使第53号より転載)

1-3 地質

流域の地質は、日本の地質構造上からみると、西南日本外帯の最東端に位置している。

西南日本と東北日本とを分ける糸魚川 - 静岡構造線は、流域の北部では東縁分水界の十枚山から文珠岳を連ねる山稜のわずかに東を南東に走り、南部では賤機山の東側に出ている。この構造線から東の部分はフォッサマグナと呼ばれる大きな地溝帯に当たり、主として新第三紀か第四紀に属する地層岩石が分布している。一方、この線から西は、より古い古第三系から古生界に属する地層が分布している。

安倍川の流域の大部分を占める瀬戸川層群は、主に砂岩・頁岩およびこれらの互層からなり、凝灰岩・チャート・石灰岩・玄武岩・斑れい岩・輝緑岩・蛇紋岩も含んでいる。その堆積時代は、貝化石から漸新世中期(3千万年以前)、浮遊性有孔虫化石から始新世～暁新世(約6千万年以前)とされている。

瀬戸川層群の西側にある三倉層群は中生界と考えられており、糸魚川 - 静岡構造線の西に位置し、これに平行する2本の逆断層、すなわち十枚山付近を通る十枚山構造線と安倍川上流の大谷崩の西を通る笹山構造線で瀬戸川層群に衝上している。

これらの地層は、赤石山地東南縁の地域から西南日本(静岡県西部・紀伊半島南部・四国南部・九州南部にかけての地域)へと連なっており、いずれも半深海から浅海にたまった厚い堆積物で、一般的には四万十帯という名で知られている。

瀬戸川層群・三倉層群とも十枚山構造線と笹山構造線の横ずれ運動によって、著しく破碎を受けているため、風化しやすく、かつ壊れやすい地層となっている。このような地質のため、山地崩壊をひきおこす有力な要因になっていると考えられる。また、このような地質の永い間の侵食によって安倍川の深い谷が形成されたものと思われる。

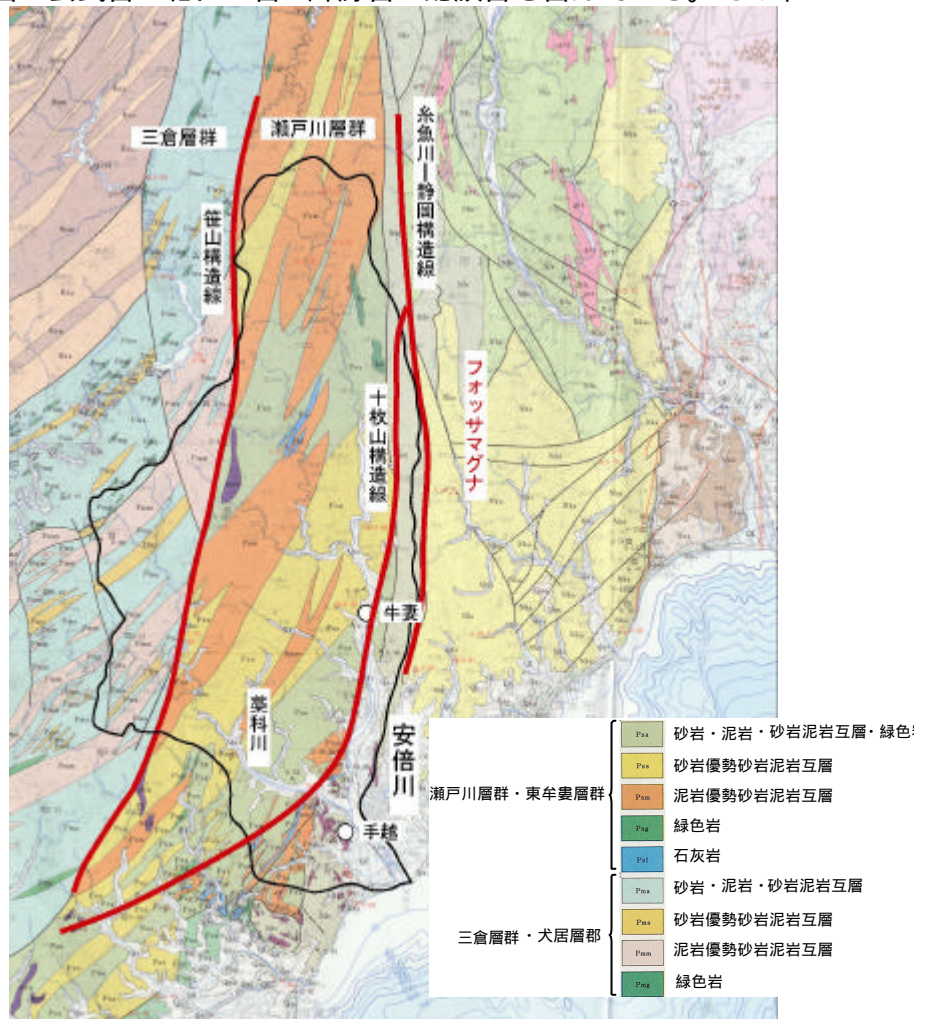


図 - 1.4 安倍川流域地質分布図

(出典:「中部地方土木地質図 解説書」中部地方土木地質図編纂委員会 (財)国土開発技術研究センター発行)

1-4 気候・気象

安倍川流域の気候は、表日本式太平洋岸型気候の特徴を示しており、全国的に見ても温暖な気候条件である。しかし、海岸に近い下流域の平野部に比べ、上流域の山間部は気温の格差が大きく、冬季の寒冷、夏季の昇温が目立つ内陸性気候であり、夏季の強雨が目立つところでもある。

安倍川流域は黒潮の影響を受け、平野部の平均気温は16℃程度で、冬季の日照時間も多く、極めて温和なところである。

また、平野部の年間平均降水量は2,200 mm程度であるが、上流域の年間平均降水量は2,800 mmを越えており、多い年には5,000 mm以上を記録したこともある。

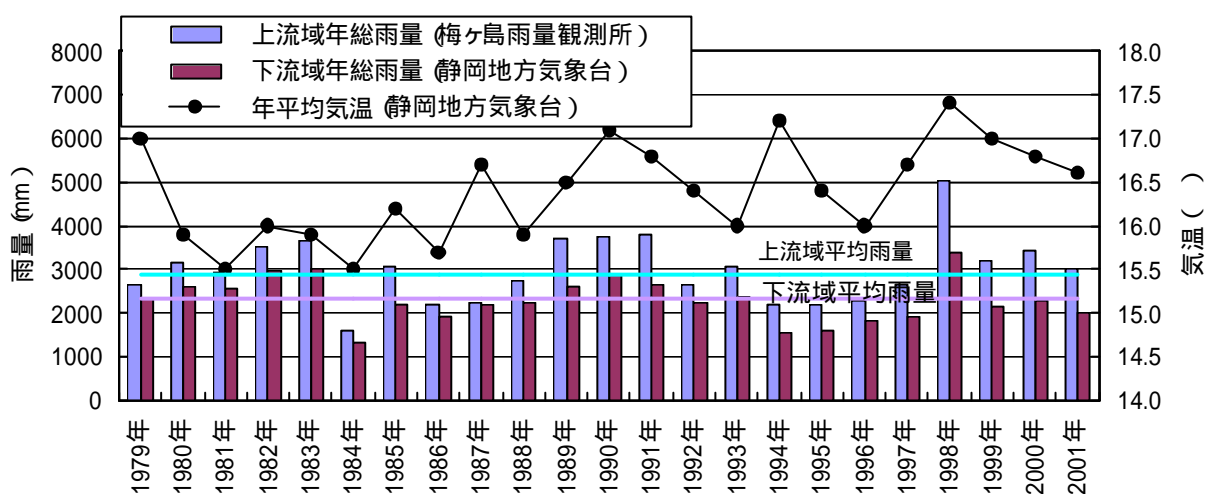


図 - 1.5 安倍川流域総雨量経年変化図

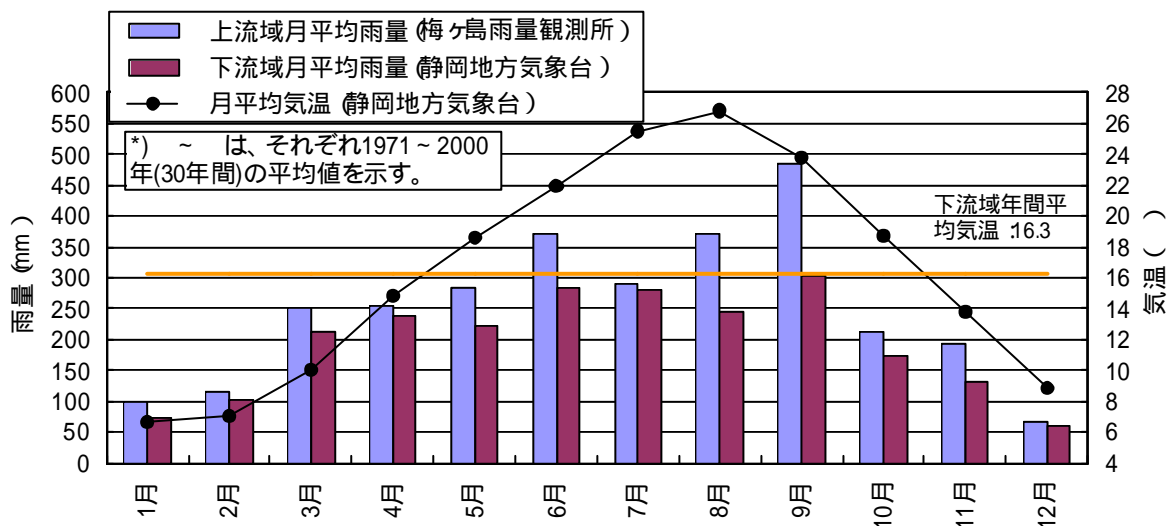


図 - 1.6 安倍川流域の月平均気温の変化

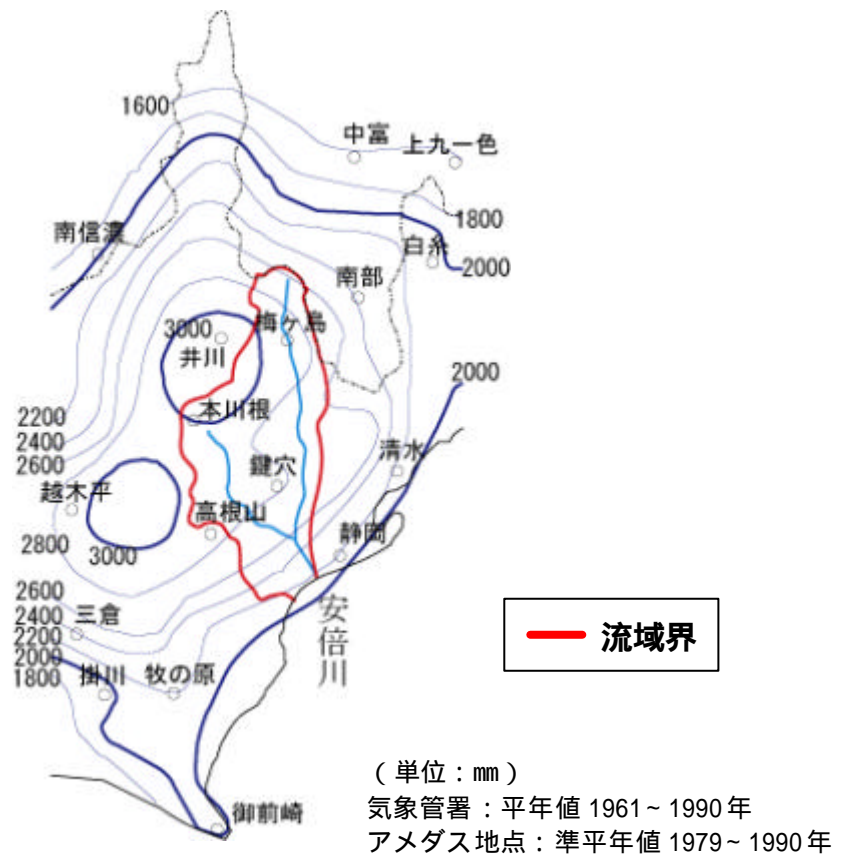


図 - 1.7 安倍川流域の年平均降水量分布図
 (出典：「しずおかの河川・海岸」平成 12 年 3 月 静岡県土木部河川砂防総室)